

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	はるleap		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日		R6年 11月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	R6年 11月 5日		R6年 11月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員、保育士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士が在籍しており、それぞれの立場からお子様にとってより良い支援を検討し、療育に取り入れている。	定期的なアセスメントを行い、発達に応じた個別支援ができています。	支援者が偏らないよう、全職員で情報共有やカンファレンスを行い、お子様の様子を把握し、誰もが個別支援を担当できるようにしている。
2	ねらいに応じて毎日様々な集団活動を行っている。	異年齢・他校の児との運動支援や身体を使った遊び、ゲーム、創作活動を通し、ルールやコミュニケーションスキルの習得に取り組んでいる。	児同士の関わりのなかで、子ども自身の自主性・主体性を引き出せるよう成功体験につながる支援を行っている。
3	送迎時の保護者との情報共有のほかに、相談ごとなどいつでも対応できる体制を取っている。	学校・家庭等の困り感に応じ、問題解決や改善策に取り組んでいる。	保護者の要望に応じていけるよう、関係機関との連携を緊密に図っていく。 保護者の不安や悩みに迅速に対応し、安心していただけるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集中しやすい環境調整がむずかしい。	個室がない。	パーティションやスタッフルームを使用しての環境調整で言語聴覚士のリハビリテーションを行っている。
2	大きな声を出して活動することができない。	美容室店舗が隣接している。	活動時のルールの設定、小声でのコミュニケーションや非言語コミュニケーションの使用に加え、戸外での活動を行っている。
3			